

子供のペースに寄り添った校内別室支援

不登校児童の状況

対象児童は、小学校1年生の途中までは登校していたが、その後、休みがちになり、小学校6年生まで不登校状態が継続している。学習の遅れがあり、学ぶことへのモチベーションが低くなっている。

具体的な取組

○個に応じた受け入れ

校内支援委員会での検討を経て、校内別室が開室したことを保護者に案内した。保護者・本人と相談し、フリースクールとの併用で、毎週水曜日に校内別室を利用する環境を整えた。

○多様な大人による児童理解

学級担任だけでなく、専科担当の教員等、様々な大人が校内別室での対話を続け、当該児童の興味・関心のあることや、長所などを見付けて情報共有してきた。創作活動に関心があると分かり、展覧会に向けた作品作りをきっかけに学びを深められるよう計画した。学習の中では、「次回はこの続きをしよう」、「次は色を塗ろう」など、「次」への意識をもてるよう言葉をかけ、学びが継続するよう支援した。



○小さな対話の積み重ね

最初は、誰にも会わないように過ごしたいと廊下に出ることも嫌がったが、校内別室を利用する児童との関わりをきっかけに、少しずつ他者とコミュニケーションをとる場面が増えてきた。校内別室内での生活に慣れてきた頃、所属学級の担任と相談し、日直の児童に給食を運んでもらうことを計画し、給食の受け渡しの際にあいさつを交わす等、同級生との対話の機会を増やせるよう支援した。

○自分らしい進路選択

校内別室で過ごす中で、学校生活への安心感が高まり、「少人数で学習する方が落ち着く」と自己理解も深まった。学級担任・保護者・当該児童とで進路について話し合い、近隣中学校の支援学級を見学に行く等、進路を見つめる気持ちをもつことができた。

成果

校内別室の利用が登校のきっかけとなり、同年代との交流等、対話の機会を増やすことができた。不登校状態ではあるものの、週1日継続的に校内別室を利用することで学校に対する抵抗感が薄れ、中学校からの登校再開を目指す前向きな気持ちが生まれ、中休みに外で遊ぶ姿も見られるようになった。

課題

中学校進学後も継続的に支援できるよう、登校支援シートを引き継ぐとともに、教育相談の利用等、保護者支援も案内していく。